

平成 26 年 2 月 26 日

各関係機関・団体長 様

愛媛県病虫害防除所長

病虫害防除技術情報（第 3 号）の送付について

このことについて、次のとおりお知らせしますので、御参照の上、防除指導方よろしくお願  
いたします。

記

- 1 情報の内容 **ネオニコチノイド系薬剤に対する感受性低下ワタアブラムシの発生**
- 2 対象作物 ワタアブラムシが寄生する野菜全般
- 3 薬剤感受性の現状
  - (1)平成 25 年作の夏秋ピーマンにおいて、地域の防除暦に沿って薬剤散布を実施しているの  
にもかかわらず、ワタアブラムシが多発する事例が認められた。
  - (2)このため、現地からワタアブラムシを採取し感受性検定を実施した。その結果、ネオニ  
コチノイド系薬剤は全般的に感受性が低く、特にクロチアニジン水溶剤、チアメトキサム  
水溶剤、ジノテフラン水溶剤、ニテンピラム水溶剤の 4 剤は補正死亡率が 20%以下であっ  
た。アセタミプリド水溶剤の補正死亡率は約 80%であった。
  - (3)有機リン剤、合成ピレスロイド剤、その他の系統の剤は、感受性の高い剤が大半であった。
  - (4)すでに宮崎県、大分県、高知県、和歌山県等で、ワタアブラムシのネオニコチノイド系薬  
剤に対する感受性低下が報告されている。
- 4 今後の対策
  - (1)アブラムシの防除で、ネオニコチノイド系薬剤を使用して防除効果が認められなかった場  
合には、他系統の有効な剤を使用する。なお、薬剤散布に当たっては登録内容を遵守する。
  - (2)ワタアブラムシは薬剤に対する抵抗性がつきやすい害虫であり、有効な薬剤でも連用によ  
り感受性低下が懸念されるため、系統の異なる薬剤によるローテーション散布を行う。
  - (3)露地栽培では、シルバーポリフィルム等の光反射資材を使用することによる有翅虫の飛来  
防止、施設栽培では、開口部の防虫ネット被覆による侵入防止等の対策を講じることによ  
り、周辺部からの飛込みを抑える。

表 ワタアブラムシの薬剤感受性検定結果(愛媛県久万高原町)

系統名	薬剤名		希釈 倍数	補正死亡 率(%)
	一般名	商品名		
ネオニコチノイド	クロチアニジン水溶剤	ダントツ水溶剤	2000	0
	チアメトキサム水溶剤	アクタラ顆粒水溶剤	3000	6.9
	ジノテフラン水溶剤	アルバリン/スタークル 顆粒水溶剤	3000	14.3
	ニテンピラム水溶剤	ベストガード水溶剤	1000	17.2
	イミダクロプリド水和剤	アドマイヤー顆粒水和剤	3000	46.2
	チアクリブド水和剤	バリアード顆粒水和剤	2000	50.0
	アセタミプリド水溶剤	モスピラン顆粒水溶剤	4000	78.6
有機リン	マラソン乳剤	マラソン乳剤	2000	100
	ジメトエート乳剤	ジメトエート乳剤	1000	100
	CYAP乳剤	サイアノックス乳剤	1000	100
	PAP乳剤	エルサン乳剤	1000	100
	アセフェート水和剤	オルトラン水和剤	1000	100
合成ピレスロイド	シペルメトリン乳剤	アグロスリン乳剤	2000	82.6
	アクリナトリン水和剤	アーデント水和剤	1000	100
	ベルメトリン乳剤	アディオオン乳剤	2000	100
	エトフェンプロックス乳剤	トレボン乳剤	1000	100
	フェンプロパトリン乳剤	ロディー乳剤	2000	100
その他	エチプロール水和剤	キラップフロアブル	1000	100
	ピリダベン水和剤	サンマイトフロアブル	1000	100
	ピメロジン水和剤	チェス顆粒水和剤	5000	100
	ピリフルキナゾン水和剤	コルト顆粒水和剤	4000	100
	フロニカミド水和剤	ウララDF	2000	100
	トルフェンピラド水和剤	ハチハチフロアブル	1000	100

1) 検定は食餌浸漬法(奈良井ら、1995)に準じて行い、処理72時間後の補正死亡率を算出した。

2) 希釈倍数は登録濃度の上限値とした。

3) 1区無翅成虫10頭、3反復。